

新しい交流の場を切りひらくアートマネジメント人材育成ネットワークの構築

九州沖縄地域のアートマネジメント人材育成ネットワークの構築

受 講 生 募 集

〔募集対象〕
劇場・音楽堂等の職員や指定管理者、地域社会振興・文化芸術に携わる自治体やNPOの職員等。アートマネジメントや文化芸術振興に関心があり、将来専門的な職業に就こうと志す学生等。

九州大学ソーシャルアートラボは、「新しい交流の場を切りひらく」というテーマで、アートに関わるマネジメント人材育成の講座を開講します。平成27年度は、自然・文化資源が豊富で、芸能や祭が盛んな九州沖縄地域の特性を踏まえた、「地域に向き合うアート実践の企画運営」の可能性を模索します。どうぞ奮ってご参加ください。

コース

- 1 基礎コース
2015年7/18(土)・7/19(日)・8/9(日)・9/27(日)
- 2 実践コース
 - A 広報戦略 2015年9月～2016年3月
 - B 企画立案 2015年10月～2016年3月
- 3 インターンシップ
2015年7月～8月

上記1、2A、2B、3より選択してご応募ください。
(複数コース応募可)
応募締切：7/15(1、3)、8/9(2A、2B)

九州大学ソーシャルアートラボは、HMEユニットを発展・継承するかたちで、平成27年4月1日に発足した教育研究機関です。

主催：九州大学大学院芸術工学研究院附属ソーシャルアートラボ
共催：(公財)福岡市文化芸術振興財団
後援：福岡県、福岡市



1 基礎コース

基礎コース(全4日)は、地域特性を活かした魅力的な文化芸術実践と効果的な事業運営を行うための知識とスキルの修得を目指します。経験豊かな12名の多彩な講師からのレクチャーを通じて知識を深めるとともに、ファシリテーターを交えたグループワークを行うことで、実践への応用スキル向上をはかります。

場所：九州大学大橋キャンパス工作工房3階 造形教室
※途中でランチ交流会をおこないますので、各自昼食をご持参ください。

定員：30名(応募者多数の場合は選考を行います)
受講料：8,400円 応募締切：7月15日(水)【必着】

今、地域に必要なアートとは？

7月18日(土) 11:00-16:30

- **アートを届ける**
玉虫美香子 アーツカウンシル東京 シニア・プログラムオフィサー
- **アーティストと地域をつなぐ**
遠藤水城 東山アーティスト・プレイズメント・サービス(HAPS)代表
- **コミュニティづくりと資金調達**
本多史朗 (公財)トヨタ財団 プログラムオフィサー

7月19日(日) 11:00-16:30

- **震災復興と音楽**
大澤隆夫 (公財)音楽の力による復興センター・東北 代表理事
- **地域資源をキュレーションする**
立木祥一郎 TecoLLC 代表
- **地域づくりとファンドレイジング**
白神加奈子 (公財)水島地域環境再生財団 客員研究員

日頃、「話を聞いてわかった気になっていたけど、身についていない!」、「他の現場ではどうしているの?」と悩んでいる方、芸術の新しい試みに関心のある方、この機会に共に語り合い、新しい交流の場を切りひらく芸術実践のための土台づくりとネットワーク構築にチャレンジしませんか?

2 実践コース

実践コースは、広報戦略と企画制作の高度な実践スキルの修得を目指します。

広報戦略プログラム

定員：20名(応募者多数の場合は選考を行います)
受講料：無料 応募締切：8月9日(日)【必着】

焼酎の発酵による音響を題材にしたアートプロジェクトを実践課題に、広報スキルを高めるプログラムを実施します。どうしたら集客ができるのか?新しい客層はどうやったら開拓できるのか?こうした問いに対して、広報とは何かを再考し、これまでとは異なる方法を試行することで答えを見つけ出していきます。

[ディレクション&ファシリテーション]

池田美奈子 九州大学大学院芸術工学研究院准教授・デザイン
藤枝守 九州大学大学院芸術工学研究院教授・作曲
ほかに、メディア関係者、神社、焼酎、地域文化の専門家を招く予定です。

[カリキュラム]

その1 ワークショップ

9月4日(金)~6日(日)
場所：九州大学大橋キャンパスほか
メディア関係者の視点から、企画コンセプトや伝え方のポイントを学ぶと同時に、受講生が普段抱えている課題を共有し、効果的な広報と情報発信の方法を検討します。また、焼酎の発酵音響によるアートプロジェクト(現代神楽「甕の音なび」の上演)に参画し、コンセプトづくりから広報までを一体化させる方法を身につけます。

その2 公演 12月12日(土)

場所：住吉神社能楽殿

その3 振り返り

日時未定(2016年1~3月)、福岡市内で開催



アートの可能性と限界

8月9日(日) 11:00-16:30

- **コミュニティにとって必要なもの**
宮城潤 NPO法人地域サポートわかさ 理事
- **アートの拡大解釈と市民自治**
森隆一郎 アーツカウンシル東京 PRディレクター
- **無関心層へのアプローチ**
八坂千景 NPO法人denk-pause 代表
大分県芸術文化スポーツ振興財団企画普及課職員

アートを地域に根づかせるために

9月27日(日) 11:00-16:30

- **震災復興とアート**
村上タカシ 宮城教育大学准教授、MMIX Lab代表
- **地域の人々との持続的な関係性構築**
坂倉杏介 東京都市大学都市生活学部准教授
- **シビックイノベーションの時代**
松田美幸 福岡地域戦略推進協議会 シニアフェロー

企画立案プログラム

定員：15名(応募者多数の場合は選考を行います)
受講料：合宿の実費(1泊2日4食付5,000円)
応募締切：8月9日(日)【必着】

福岡県八女市の里山を舞台に、参加型アート実践の企画を立案します。地域の人々にとって魅力的な企画とは何か?中山間地と都市を結ぶアートの企画は可能なのか?こうした問いに対する答えを、現場に足を運んで見つけ出していきます。



[ディレクション&ファシリテーション]

朝廣和夫 九州大学大学院芸術工学研究院准教授・ランドスケープ
知足美加子 九州大学大学院芸術工学研究院准教授・彫刻
大澤寅雄 ニッセイ基礎研究所研究員、ソーシャルアートラボ・アドバイザー
小森耕太 NPO法人山村塾 事務局長

[カリキュラム]

その1 合宿

10月10日(土)~11日(日)(1泊2日)
場所：福岡県八女市黒木町笠原「えがおの森」
八女市黒木町を実際に歩きながら、そこに息づく自然と文化に触れ、棚田・豪雨災害被災地・木工工場の見学、竹林整備体験のほか、地域の方との交流をおこないます。これらの体験を通じて、地域の課題のみつけ方、地域資源の活用方法を学び、新しい交流を生むアートの企画について考えます。

その2 ワークショップ2回 + 企画コンペティション

日時未定(11~3月)、福岡市内で開催

[企画運営]

尾本章(ラボ長・教授)
中村美亜(准教授)
大澤寅雄(アドバイザー)
高坂葉月(事務局長)
石上洋明(スタッフ)
佐々倉由美(スタッフ)

3 インターンシップ

実践コースに参加する前に、現場経験を積みたい方のために、インターンシップ先をご紹介します。

定員：若干名(応募者多数の場合は選考を行います)
受講料：無料 応募締切：7月15日(水)【必着】

基礎コース講師プロフィール

玉虫 美香子



1987年より実験的ライブスペース「スタジオ200」(西武百貨店運営)にて企画制作。武満徹氏企画構成の現代音楽祭「MUSIC TODAY」、「八ヶ岳高原音楽祭」制作を経て、セゾン文化財団の助成により米国コロンビア大学大学院(アーツアドミニストレーション)留学。帰国後、アリオン音楽財団にて国際芸術祭「(東京の夏)音楽祭」の企画制作・事務局長。トーキョーワンダーサイト(公益財団法人東京都歴史文化財団)にてレジデンス・音楽事業担当を経て現職。

本多史朗



1990年代前半には、在フィリピン日本大使館専門調査員として、日本のポピュラー文化を用いての国際交流の提言を行う。(公財)トヨタ財団では、ミャンマーなどでの草の根古文書保全の枠組みづくりを行う。また、助成財団センターにて、助成手法についての体系的なテキストづくりと普及に従事する。現在は、トヨタ財団「復興公営住宅におけるコミュニティ作り」プログラムを担当。最近では「原子力被災者、津波被災者、そして旧住民によるコミュニティづくりに向けて」(トヨタ財団広報誌ジョイント第18号)を執筆。

立木祥一郎



1962年東京生まれ。東北大学文学部卒。川崎市市民ミュージアム学芸員を経て青森県立美術館整備に携わる。のべ17千人のボランティアと弘前で3回の奈良美智展を実施。青森県技術研究所を経て2008年tecoLLC設立。公共施設計画、展示設計、商品ブランディング、開発を行う。GOODDESIGN受賞5回。IMF世界銀行年次総会日本政府公式記念品企画デザイン制作。開発ディレクションしたおやさいクレヨンvegetaboは2014ロハスデザイン大賞モノ部門大賞。設計共同体と提案した青森市庁舎整備設計プロポーザル最優秀。

宮城潤



1972年生まれ。那覇市出身。沖縄県立芸術大学大学院(彫刻専攻)修了。2001年NPO前島アートセンター設立、初代理事長。wanakio(ワナキオ)など、まちなかを舞台にした現代アートプロジェクトを企画。2006年より若狭公民館に勤務。社会教育指導員、非常勤館長、業務委託団体責任者を経て、2015年から指定管理団体(NPO法人地域サポートわかさ)の館長。そのほか、文科省委嘱社会教育アドバイザーや沖縄県立博物館・美術館協議会ワーキングメンバーなども務めた。NPO法人アートNPOリンク理事。

八坂千景



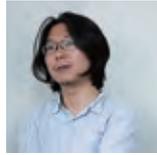
大分県出身。2005年にクラシック音楽のコンサート企画や音楽家をマネジメントする団体を立ち上げ、2012年にNPO法人化し、名前をdenk-pauseとする。2008年10月から九州大学大学院HME育成ユニットに参加(科目等履修生として修了)。現在は、大分県芸術文化スポーツ振興財団に籍を置き、ホールの企画、友の会「びび」運営に携わる。その他、商店街の店主たちと立ち上げた「ぶんご・ふない座」のプロデュース、おおいとイノベーション実行委員長を務める。

坂倉杏介



多様な主体の相互作用によってつながりと活動が生まれる「コミュニティ・プラットフォーム」という視点から、地域コミュニティの形成過程やワークショップの体験のデザインを実践的に研究。共著に「黒板とワイン—もう一つの学び場「三田の家」」、『ソーシャル・イノベーションが拓く世界』など。現在、東京都市大学都市生活学部准教授、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任講師、三田の家LLP代表、NPO法人エイブル・アート・ジャパン理事。

遠藤水城



九州大学比較社会文化研究学府博士後期課程満期退学。art space tetra(2004/福岡)、Future Prospects Art Space(2005/マニラ)などのアートスペースの設立に携わる。2005年、若手キュレーターに贈られる国際賞「Lorenzo Bonaldi Art Prize」を受賞。2007年より2010年までARCUS Projectディレクターを務める。2009年「福岡アジア美術トリエンナーレ」協キュレーター、「ヨコハマ国際映像祭2009」キュレーター。2011年、「菅根裕展:Perfect Moment」ゲストキュレーター。「国東半島アートプロジェクト」レジデンス・ディレクター(2012-2014)。2011年より「東山アーティスト・プレイメント・サービス(HAPS)」の代表を務める。

大澤隆夫



1947年仙台生まれ。東北学院大学を卒業後、仙台市役所入庁。広報課、文化財管理係長、市民生活課文化振興係長、文化振興課長等を経て、2004年度から市民局理事(市民文化事業団副理事長兼仙台フィル専務理事)。退職後も同業務を担当。2009年度から仙台フィルに専従。大震災時は仙台フィル専務理事。仙台市の仙台フィル支援強化、オペラ支倉常長「遠い帆」立ち上げ、文学館建設、ジュニアオーケストラ立ち上げ、第二回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクールおよび仙台国際音楽コンクール(2,3回)、せんくら(初回から3回)などに従事。

白神加奈子



1976年倉敷生まれ。倉敷芸術科学大学卒業、岡山大学大学院教育学研究科修了。約10年間、(公財)水島地域環境再生財団の研究員として、公害環境学習や環境保健、資料保存など公害地域の環境再生・地域づくりに携わる。ファンドレイジングの視点での組織運営や、公益財団法人移行を行うとともに、コミュニティFMとの連携、中国との交流等、国内外への情報発信に力をいれる。2013年日本ファンドレイジング協会認定ファンドレーザーとなる。福岡市在住。

森隆一郎



1966年東京生まれ。1990年江東区文化センターで生涯学習講座やホール公演、コミュニティ企画等を担当。1998年からディアラこうとうで、異ジャンルのコラボレーション企画の企画制作。併せて、2002年アサヒ・アート・フェスティバルに立ち上げより参画。2007年福島県いわき市に新設された「いわき芸術文化交流館アリオス」のマーケティングマネージャーとして準備室から参加。多様な市民にとって、施設がアートを通じた出あいや気づきの場となるための仕組みづくりを実践。フリーペーパー「TOKYO PAPER for Culture」発行人。2012年より現職。

村上タカシ



熊本生まれ。1986年より畳やお米を使ったインスタレーション作品など美術家として東京で活動を開始。国内外の展覧会やアートプロジェクトに参加。また、IZUMIWAKU project「学校美術館構想」展や「アート・インクルージョン」など数々の学校やまちを使ったアートプロジェクトを企画実施。2011年東日本震災以降は「3.11メモリアルプロジェクト」や「桜3.11学校プロジェクト」などを展開中。現在、国立大学法人宮城教育大学准教授、MMIX Lab 代表、美術家として活動中。http://mmix.org

松田美幸



企業やパブリックセクターの戦略経営と組織変革に関わり、組織のマネジメントシステムやガバナンス改革を支援してきた。近年は、福岡都市圏の国際競争力強化に向けて、産官学民をつないで地域の経済成長を促すプロジェクトを開発・推進している。また、地域における若者や女性活躍を推進するためのNPO活動などを通じて、多様な人材が活躍する地域づくりに挑んでいる。公立大学法人福岡女子大学の学長特別補佐も務める。

お申し込み方法

以下の項目を記載のうえ、メール・ファックス・ホームページの応募フォームのいずれかよりお申し込みください。土日・祝日を除いて48時間以内に返信いたします。

[記載事項] ①氏名(フリガナ) ②年齢 ③住所 ④電話番号 ⑤メールアドレス
⑥所属先 ⑦活動歴 ⑧学びたいこと・参加の動機 ⑨参加希望コース

《お申し込み・お問い合わせ》九州大学大学院芸術工学研究院附属ソーシャルアートラボ
TEL & FAX: 092-553-4552 E-mail: sal@design.kyushu-u.ac.jp
ホームページ: <http://www.sal.design.kyushu-u.ac.jp/>
<https://www.facebook.com/SAL.Design.KU>

会場のご案内

